

学校運営協議会だより

文責 CS事務局

回
覧

今年から、中学校の教科書が新しくなりました。学校運営協議会だより No.12では、学校で使用する教科書がどのように選ばれているのか(教科書採択の方法)を解説したいと思います。

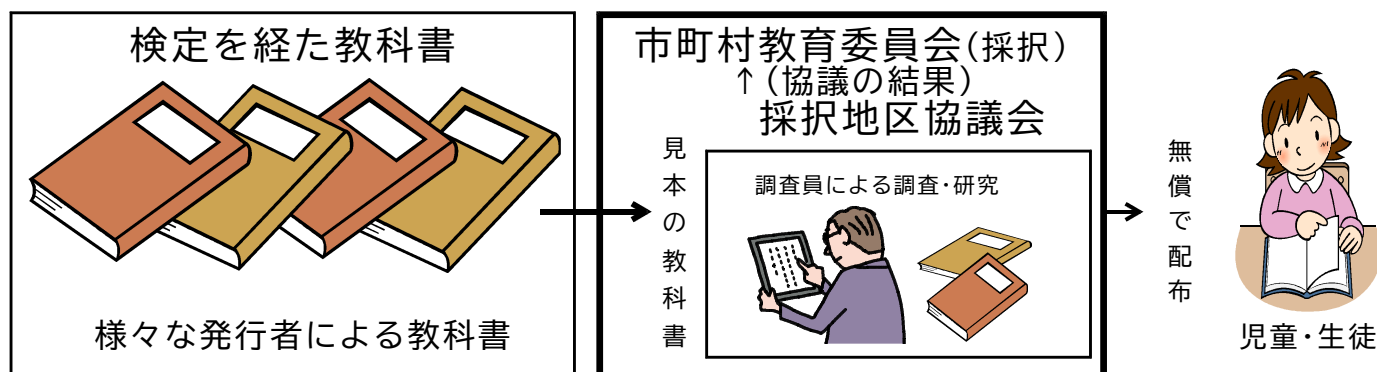
教科書検定とは

日本では、学校教育法により、小・中・高等学校等の教科書について教科書検定制度が採用されています。教科書検定とは、民間で著作・編纂された図書について、文部科学大臣が教科書として適切か否かを審査し、これに合格した教科書の使用を認めるものです。



教科書の見本は、採
択前に各教育委員
会が設定した日程
で、住民に公開さ
れてい
ま
す。
(展
示
会)

採択の方法(様々な発行者による教科書を誰が選ぶのか?)



教科書採択とは、学校で使用する教科書を決定することです。その権限は、公立学校で使用する教科書については、市町村や都道府県教育委員会にあります。

共同採択

市町村の小・中学校で使用する教科書の採択の権限は、市町村教育委員会にあります。採択にあたっては、都道府県教育会が「市町村の区域又はこれらの区域を併せた地区」を採択地区として設定します。

採択地区が2以上の市町村の区域を併せた地域(共同採択地区)であるとき、地区内の市町村教育委員会は、採択地区協議会における協議結果に基づき、種目ごとに一種の教科書を採択するととされています。

京極町は

第4地区教科書採択教育委員会協議会

小樽市を除く、後志19町村は、協議会を組織して、令和6年度から小学校が利用する教科書、令和7年度から中学校が利用する教科書を協議します。

京極町(京極町教育委員会)においても、種目ごとに1種類の教科書を採択しています。

～後志管外へ転校すると教科書が異なる場合があります～

例えば、京極町から小樽市の小学校・中学校に転校した場合は、使用する教科書が変わる場合があります。(小樽市が京極町と異なる教科書を採択している場合)

昨年採択された教科書の中には、これまでと異なる教科書が採択されています。中学校で使用する「特別の教科道徳」(学冊)がその一つです。この教科書は、「日本で初めて認められた女性医師」を教材化しています。その女性を紹介したいと思います。

日本で初めて認められた女性の医師

寛永四(一八五二)年三月三日、俵瀬村(現在の埼玉県熊谷市)に生まれた荻野吟子さんは、幼い時から聡明で学問好きであつたと言われています。

十八歳になる年に嫁ぎましたが、不慮の病に侵され治療を受けることになり、2年後に離婚しました。

病の治療中、入院した病院には女性の医師が一人もおらず、女性医師の必要性を感じた吟子さんは、医師になることを決意しました。

当初、女性には、医師になる道が閉ざされていましたが



明治八(一八七五)年、現在のお茶の水大学に入学。卒業後、女人禁制だった私立の医学学校「好寿院」に入学し、医学を学びました。

ところが、卒業後、医師になるための医術開業試験を受けようとする、女性であることが理由に受験を認めてもらえませんでした。吟子さんは、諦めず同じく医師を目指す女性の先頭に立ち、二年にわたって女性の受験を認めるよう訴えました。長期にわたって学んだ学問の知識を生かし、古代の日本にも女性の医師がいた事実を見つけ、役人を説得して受験を認めさせました。

そして、明治一八(一八八五)年、医術開業試験に合格し、日本公許登録女子第一号となり、三十五歳で、東京の本郷湯島に開業しました。

その後の明治二十三(一八八八)年、再婚した志方之善氏と共にキリスト教理想郷建設を目指し北海道の今金に入植し、明治三十(一八九七)年、北海道瀬棚町で開業し婦人解放運動でも活躍しますが、之善氏の死去により東京に戻り再び医院を開業しました。

医師として多くの患者を救い、女性の社会進出のため尽力した吟子さんは、大正二(一九一三)年に六十三歳の生涯を閉じました。

ご案内

荻野吟子さんをもっと知りたい方は湧学館へお越しください。
伝記があります。
荻野吟子 日本で初めての女性医師 あかね書房

